

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 リバーサイド		
○保護者評価実施期間	令和8年1月27日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和8年1月27日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自然豊かな環境に囲まれており、子どもたちが安心してのびのびと過ごしやすい環境が整っている。	自然豊かな環境を活かし、子どもたちが安心してのびのびと活動できるよう環境づくりや見守りを行っている。	安全面への配慮や環境整備を継続して行っていく。
2	送迎については、学校や保護者の都合に合わせて柔軟に対応し、利用しやすい体制を整えている。	送迎時にその日の様子や体調面、気になる点などを保護者へ伝え、家庭との情報共有を行っている。	保護者の状況に配慮しながら、今後も柔軟な送迎対応を行い、利用しやすい体制の維持・充実に努めていく。
3	保護者や相談支援専門員との連携を大切に、情報共有を行いながら子ども一人ひとりに合った支援を行っている。	保護者や相談支援専門員と連携を図りながら、子ども一人ひとりの状況に応じた支援を行うよう努めている。職員間でも日々の様子を共有し、支援方法について話し合いながら統一した支援を行うよう心掛けている。	保護者や相談支援専門員との情報共有を継続し、関係機関との連携を深めながら子ども一人ひとりに合った支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレント・トレーニングの技法を、実際の支援現場で活用できるよう、実践的な技術を段階的に習得する。	ペアレント・トレーニングに関する知識や技法について、職員間での理解や経験に差があり、実際の支援現場で十分に活用できていない部分がある。日々の業務の中で、技法を実践的に学ぶ機会や共有する時間が十分に確保できていないことが要因と考えられる。	ペアレント・トレーニングに関する研修や勉強会を行い、職員の知識や技術の向上を図る。職員間で支援方法について話し合う機会を設け、実際の支援現場で活用できるように実践的な学びを深めていく。学んだ内容を日々の支援に取り入れながら、段階的に技術の習得と支援の質の向上を目指していく。
2	保護者同士がコミュニケーションを取りやすい環境作り。	送迎時の短い時間でのやり取りが中心となっており、保護者同士が交流する機会を十分に設けることができていない。保護者同士が自然に関われる場づくりについて、事業所としての取り組みがまだ十分ではないと考えられる。	保護者会や行事などの機会を活用し、保護者同士が交流できる場づくりを検討していく。保護者が気軽に情報交換や相談ができるよう、安心して関われる環境づくりに努めていく。
3	事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等の保護者への周知・説明。	各種マニュアルについて、保護者へ十分に周知・説明する機会が少ない。マニュアルの内容を詳しく説明する時間を確保できていないことが要因と考えられる。	マニュアルの内容について、保護者へ分かりやすく周知していく。事業所の安全対策について理解を深めてもらえるよう取り組んでいく。